TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙―恵みのスペクトル　秘儀の啓示
エフェソの信徒への手紙３章１－13 節

2025 年10月 25 日 & 26 日
ジェシー・セザリオ　牧師

ご挨拶
TBC ウェスト・トウキョウ、TBC 三郷、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、私たちと共に礼拝してくださっている皆さん、こんにちは。父なる神と主イエス・キリストの恵みと平安が、皆さんと共にありますように。
本日の聖書箇所はエフェソの信徒への手紙 3 章1節から 13 節です。
祈りましょう。

はじめに
ご存知かもしれませんが、私は TBC のナーサリーの責任者をしています。そのため預けられても平気な子もいる一方で、親が戻るまで泣き続ける子もいることに気づきました。
これは愛着理論と呼ばれ、1970 年代に心理学者が子供と親の間の愛着という自然な現象に注目して広まりました。
子供の親への愛着は非常に強く、大きくなっても困った時には、たとえ親がいないと理屈ではわかっていても親に呼びかけることがあります。しかしながら、愛着はそれで終わりではありません…。
戦時中、戦場で重傷を負った成人兵士が最期の瞬間に母親に助けを求めることもよく知られています。それは人が両親との間に持つ、強いつながりです。

今日学ぶ 3 章で、パウロは神の計画の偉大な秘義について教えています。私たちは教義についてパウロが説いた 2 つの章を見終わっていて、これが 4 章の適用の前の、3 番目で最後の教義の章です。
しかし教義について最後の章となる 3 章でも、パウロは私たちに何も隠したりしません。なぜならここで今日、私たちはパウロが「秘義」と呼ぶものを耳にするからです。

パウロはかつて、救いは自分の国、つまりユダヤ人だけのものだと考えていたことを思い出してください。でもダマスカスへ向かう道の途中でこの手紙を書いている時、神はパウロに主のご計画は全世界に及ぶということを明らかにされました。パウロはこれを知り、教会だけでなく、今や全ての人に知ってほしいと願っています。

私パウロは…
エフェソの信徒への手紙 3:1「このようなわけで、私パウロは、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっています。」

ここでパウロは「このようなわけで」という言葉で始めて、これから祈ろうとしている事を示しています。1章でも同様のことをしました。
パウロは再び教義と神学から適用へと話を移して、すぐに話を中断します。なぜなら、読者にとって、牢獄は遣わされた使徒(使徒とは「遣わされた」という意味)にとって、そして神のメッセージと秘義を世界に伝える使命を帯びた人にとって、奇妙な場所のように見えるかもしれないからです。

しかし、ここでパウロは再び私たちに OJT（実地研修）を与えています。なぜなら、パウロは投獄されている間、自分はローマの囚人ではなく、イエス・キリストの囚人であることを私たちに理解してもらいたいからです。ですから、パウロは投獄を自分の使命に対する障害として見ているのではなく、むしろそれを神の導きとして見ているのです。

考えてみれば、もしパウロが牢獄の外にいたら、今日この手紙は存在しなかったでしょう。フィリピの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙、フィレモンへの手紙、そしてテモテへの手紙二も、彼が獄中で書いたものです。
ですから、パウロはこの時間を障害とは考えておらず、むしろ相手に手紙を書き祈ることによって、神聖な使命をさらに推し進める機会であり土台だと考えています。彼はこう言っていま。「私の投獄は、あなたたちへの私の使命と奉仕の一部です」

さて、あなたはどうですか？　自分の小さな「牢獄」を何と考えますか？あなたは自分の困難な仕事、難しい人間関係、結婚生活、経済状況などのいかなる困難な状況においても、それを神の栄光をもたらすための神聖な場にいると考えているでしょうか。

聖書にはこう書かれています。
コロサイの信徒への手紙 3:2「上にあるものを思いなさい。地上のものに思いを寄せてはなりません。」

パウロのように、私たちも困難な状況を牢獄ではなく、自分たちの土台として捉えるべきです。私たちの牢獄は、私たちの使命、奉仕、説教壇、そしてこの地上で神の栄光をもたらすための道なのかもしれません。
パウロはまさにこれを行い、私たちにもそうしてほしいと願っています。神はそれを尊ぶことでしょう。自分の小さな牢獄を世界に神を示すための土台だと考えてください。

秘儀が明かされる
「2 あなたがたのために私に与えられた神の恵みの計画について、あなたがたは確かに聞いたはずです。3 初めに手短に書いたように、啓示によって秘義が私に知らされました。4 あなたがたは、それを読めば、私がキリストの秘義をどのように理解しているのかが分かります。5 この秘義は、前の時代には人の子らには知らされていませんでしたが、今や霊によってその聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。」

今 2 節はイスラエル共同体に属する人を特に悩ませるでしょう。パウロはこう言っているのです「あなたがた（異邦人）のために私に与えられた神の恵みの計画について、あなたがた（異邦人）は確かに聞いたはずです。」

パウロは異邦人たちにただ気付かせたのです。
エフェソの信徒への手紙 2 章 12 節「その時、あなたがたはキリストなしに生き、イスラエルの国籍とは無縁で、約束の契約についてはよそ者で、世にあって希望を持たず、神もなく生きていました。」

そして今、彼らがイスラエルの国家に加わることのできる、新たな恵みの分配があると教えています。
「分配」という言葉はギリシャ語の οἰκονομίαν（オイコノミアン）に由来し、「統治」や「行政」というようなことです。つまり家族や王国といった言葉に見られるように、この言葉には包含と排除の感情が含まれています。「これは私の家族です」や「これは私の民です」といった具合です。

そこでパウロは再び秘儀を示します。
「6 すなわち、異邦人が福音により、キリスト・イエスにあって、共に相続する者、共に同じ体に属する者、共に約束にあずかる者となるということです。」

それ程大したことではないようですね。誰かに近づいて「やあ、新しい恵みの時代が来たから、君も参加できるよ！」と言っても大した効果はないでしょう。

パウロは過去にエフェソで既に宣教活動を行っていました。彼らはすでに福音を知っていたので、パウロはこの手紙の中で他の大半の手紙よりも深く掘り下げて書いています。その代わりに、ここではイエス・キリストの福音を知ってから何が起きたかという「大学院課程」に取り組んでいます。だからこそ、彼は今分配（神の摂理）について語っているのです。

それを理解することさえも神秘です。パウロは救われた後もそして救われている最中も、アラビアに 3 年間滞在しなければならず、そして神の霊によって彼にそれを現してもらいました。ですから、分配（神の摂理）の話は秘義です。でも福音はそれであり、一度見たら、忘れられないということです。

パウロの心は、イザヤ書 11 章 10 節へと戻ります。
「その日になると　エッサイの根がもろもろの民の旗印として立つ。 国々は彼を求め　彼のとどまるところは栄光に輝く。」

そしてパウロはこれがこの預言の成就であると分かっています。ですから今、信者として、あなたがユダヤ人であろうと異邦人であろうと、神の国とは私たちがイスラエルにただ行くことではなく、イスラエルを含む国々の集まりである地球全体が今神に属しているのだということを、パウロはあなたに知ってほ

しいのです。なぜなら新しい人類とは教会であり、教会には国境がないからです。それは全世界的な動きなのです。

救世主であるイエス・キリストは、あなたと世界全体の罪のために十字架の上で死に、この世界の私たちを一つにしてくださいました。神の世界平和の計画は、戦争や征服によるものではなく、自分自身を罪人として認識し、地球上の他の誰よりも優れているわけでも、より多くの物を受けるに値するわけでもないと認めることで実現するのです。

でもこれはなかなか理解しにくい教訓です。それでも世界の独裁者や聖人たちが皆、最終的に同じ刑務所に入れられると言ってみれば、きっと目が覚めるでしょう。あるいはあなた自身も彼らと同じ刑務所に入れられるに値するし、また入れられるべきだと気づいた時に、更に目が覚めるかもしれません。

誰が自分より優れているかとか、自分が誰より優れているかと考えるのは止めましょう。主があなたにそうするようにと命じたことだと思いますか？分裂するようにと？

団結には力があります！これは私たちがキリストにあって持っている秘義の一部です。パウロは、成熟したキリストの信者だけがこのような秘義を扱えると知っていました。ですからエフェソのこの成熟した教会に、自分の祈りを中断してこのメッセージを伝えたのです。
相手が誰であろうと、どんな顔をしていようと、どんな肌の色をしていようと、どこの国から来ようと、どんな言語を話していようと、彼らは家族だと伝えることです。彼らは相続人仲間であり、共同体の仲間であり、神の約束にあって分かち合う仲間たちなのです。その家族こそが教会です。そして教会は世界的なものです。

神学者のジョン・ストット氏は、「私たちの神は世界の神であるので、私たちは世界的な視野を持つ世界的なクリスチャンでなければなりません」と言いました。それは本当です。でもパウロが示唆しているのは、それよりも大きなことです。

パウロは続けます。

私たちの力
「6…異邦人が福音により… 7 神は、その力を働かせて私に恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。8 この恵みは、すべての聖なる者のうちで最も小さな者である私に与えられました。キリストの計り知れない富を異邦人に告げ知らせ」

パウロは 7 節で、福音の力、恵みの賜物--- 神の力の効果的な働きが、パウロを再生させ、聖別し、神の国とメシアの約束の地にパウロを移動させた--- これは神がイエスを死から蘇らせた力と同じであり、今はその力がパウロの内に働いて異邦人に福音を伝えていると言及しています。
パウロはあまりにも興奮して、ここで同じ事を繰り返しています。1 章とほぼ同じことを言っているのです。

エフェソの信徒への手紙 1:17-19「17 私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、あなたがたに知恵と啓示の霊を与えてくださいますように。そして、あなたがたが神を深く知ることができ、18 心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか、19 また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができますように。」

その力はパウロの内にあり、そしてその力は私たちの中にもあります！ ただ私たちはそれを知らないだけだ、と聖書は言っています。

私たちは世界中のあらゆる力を持つことができますが、それを使わなければ何の意味もありません。そのことを説明しましょう。

世界最速の列車をご存知ですか？それは SCMaglev(超電導リニア)と呼ばれ、時速約 600km で走行します。しかもエンジンすら搭載されていません。でもそれを手に入れる前に、まず新幹線が必要でした。新幹線は電動列車を引き継いで造られ、電動列車は蒸気機関車から引き継いで造られたディーゼル機関車に引き継いで造られました。蒸気機関は 1700 年代の産業革命のきっかけとなりました。まさにその時に技術が本格的に始まり、産業革命が始まったのです。
でも、実際は最初の蒸気機関は英雄であるギリシャの数学者によって 1 世紀にエジプトで発明されました。それはイエスやパウロやほかの使徒たちが生きていた世紀と同じです。そして、それはドアを「魔法のように」動かすための仕掛けとして使われました。人々はそれを面白がっていましたが、おもちゃとしてしか見ていませんでした。

でも考えてみてください。もし彼らがその力を利用しどのように人々を動かすのかを理解していたら、地球は今日よりも 1700 年分進歩していたでしょう。私たちは 1700 年後に生きていることになります。

でもパウロを見て、彼が何をしているのか注目してください。パウロは力から、それを実践に移す段階へと移っているのです。これがパウロの OJT です。彼は自分が天の救済という壮大な計画の一部であることを知っているのです。そしてその一部であることを心から喜んでいます。
そして獄中でこの手紙を書いている間も、彼は自分が何をすべきかを知っています。主イエスに驚嘆し、礼拝し、それを祈りへと向かう動機にしているのです。

するとこういう疑問が生まれます。あなたはどれくらいの頻度で祈りますか？誰かに教わったことがあるもしれませんが、祈りには力があります。

ヤコブの手紙 5 章 16 節「それゆえ、癒やされるように、互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。正しい人の執り成しは、大いに力があり、効果があります。」

パウロがこの手紙の中で祈るのはこれで 3 回目です。彼は手紙の中で 8 回祈り、どの手紙でも必ず感謝をささげています。それはパウロの習慣であり、神の恵みについて聞いたことがある私たち一人一人の習慣であるべきです。
祈りには力があるからです！
祈りがトランス状態のように見える必要はありません。パウロが、執筆、教え、説教、そして“神学する”(私が作った言葉)といったマルチタスクを同時にこなしながら祈っていたことに、お気づきでしたか？

歩いているとき、走っているとき、ジャンプしているとき、運動しているとき、洗濯しているとき、野菜を切ったり、料理をしたり、食事をしているとき、歌っているとき、ギターを弾いているとき、太鼓を叩いているとき、ロックしているとき、話しているとき、教えているとき、ラップをしているとき、説教しているときでさえ祈ることができます。呼吸をしているから祈れるのです。短い祈りでも長い祈りでも、どこでも、どんな時間でも祈ることができます。

でも何が問題かお分かりでしょう…私たちは祈らないのです。

聞いてください。祈りを後回しにしていたら、主と共に歩むのに何年も遅れを取ることになります。前から知っていたら、今の自分よりずっと進歩できたことに気づくでしょう、もしパウロのように祈っていたならば---絶え間なく。

ほかの人はあなたを祈る人だと思っていますか？ つまり、キリスト教徒の兄弟姉妹はそう思っていますか？ 配偶者やお子さんは？ 同僚の牧師や聖職者たちは？
もしかしたらこう思われるかもしれません。「マルチタスクをこなしながら祈れるし、祈りの動きを全てやったり、お祈り特有の言葉を使う必要はない、ですよね、パスター？」

私が言いたいのはつまり、信者の皆さんは他の人に祈るよう勧めていますか？

私たちは「あなたはあまり祈っていない」と非難したいわけではありません。私たちがしたいのは、人々が祈り始めるのを助けることなのです。
皆に加わるように呼び掛けてください。次に会ったときに人が逃げてしまわないように、28 分間は祈らないでください。あるいは別の方法として、相手にあなたのために祈ってもらうことです…。「私のためにちょっと祈ってくれませんか？」と言ってください。

聖書の中で最も短い二つの祈りは、ペテロが水の上で怖くなってイエスに「主よ、私をお救いください」と言ったときです。もう一人は、娘の治癒を願ってイエスに「主よ、私を助けてください」と祈ったカナン人の女性でした。
それだけです。あなたにとっても彼らにとっても。長々とした祈りは、イエスが私たちにししないようにと言われたことです。イエスがアラム語で私たちに与えてくださった祈りの模範である主の祈りは、約 15 秒かかります。

念のため言っておきますが、集団祈祷のことではありません。ちなみに、TBC では 12 月 31 日に年末祈祷を計画していて、私も参加する予定です。皆さん

もぜひ参加してください。ですから、他の人も参加して祈りに加わるよう勧めてください。

パウロの話はまだ終わりません…。これから彼は、私たちが背負っている動機のすべてについて語ります。そして再び秘儀へと戻ります。

明らかにされた秘儀

「9 すべてのものを造られた神の内に永遠の昔から隠されていた秘義の計画がどのようなものであるかを、すべての人に明らかにするためです。10 こうして、神の豊かな知恵が、今や教会を通して天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、11 これは、神が私たちの主キリスト・イエスにおいて実現してくださった永遠の計画に沿うものです。」

パウロは 9 節で再び交わりの秘儀を明らかにします。畏敬の念に満ちたこの瞬間に、彼はすべての人にその秘義の「交わり」を理解させたいのです。このすべてにおいて、彼は私たちだけについて話しているわけではありません。

コロサイの信徒への手紙 2 章 15 節「こうして、神はもろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストにあって彼らを勝利の行進に従えて、公然とさらしものになさいました。」

私たちが持つ交わりは、イエス・キリストの血による新しい人間性です。それは単に異邦人とユダヤ人の一致への呼びかけではなく、教会として私たちがすべき事でもありません。交わりそのものが神の摂理であり、初めから神の御業であり計画なのです。
神には常に、自分のために聖なる民を造るという計画がありました。私たちは、私たちの働きによってではなく、神の働きによって神の民となるのです。キリストが交わりの根であったように、パウロは今、新しい人類という交わりの実りを、すべての被造物の前に掲げ、人々に見せたいと願っています。それは主の栄光が私たちの内に見られるためです。

パウロは 10 節で、天使や悪魔、つまり霊的な存在の前で私たちの栄光を振りかざすことについて語っています。でも彼らと比べて我々は何なのでしょう？

詩篇 103:14-16「14 主は私たちが造られた様を知り 私たちが塵にすぎないことを覚えておられる。15 人の日々は草のよう。 野の花のように咲くのみ。風がそこを吹き抜ければ、消えうせ 生えていた場所も、もはやそれを知らない。」

ですが、神の恵みは彼らに恥をかかせるために私たちに与えられたのです。

コリント人への第一の手紙 1 章 27 節「ところが、神は知恵ある者を恥じ入らせるために、世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、世の弱い者を選ばれました。」

これまでずっと、サタンは私たちを裁き、告げ口をしてきました。ずっと私たちを攻撃し続けてきたのです。でも話はまだ続きます…。

創世記 1 章 26～27 節で、神はこう言われました。
「我々のかたちに、我々の姿に人を造ろう。」

天使も悪魔も、そして他の何物も神の似姿をもっていません。人間は神の似姿として創造されましたが、サタンは人間を欺き、神になろうとする自分と同じ欲望を抱かせました。そのため人間は霊的な死を経験しました。霊的な力を含むすべての創造物は、私たちを神の花嫁として一つの肉体を持つために、神自身が私たちのように塵になることを望んでいませんでした。

ガラテヤ人への手紙 4:4-7「4 しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から生まれた者、律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。5 それは、律法の下にある者を贖い出し、私たちに子としての身分を授けるためでした。6 あなたがたが子であるゆえに、神は「アッバ、父よ」と呼び求める御子の霊を、私たちの心に送ってくださったのです。7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神による相続人でもあるのです。」

この意味は、私たちはかつて弱く罪深い泥のような存在であり、サタンのように堕落しサタンが受けた同じ怒りを受けるに値したにもかかわらず、神がキリスト・イエスによって私たちを救ってくださったということです。

「12 キリストにあって、私たちは、キリストの真実により、確信をもって、堂々と神に近づくことができます。」

だから今私たちはそのような権威を持ち、神の御前に行けるのです。エステルが最初に怖れたように、私たちが怖れるものは何もありません。サタンとその軍勢とは違い、私たちは玉座の間に迎え入れられ、必要なものは何でも神に直接求めることができるのです。

ヘブライ人への手紙 4 章 16 節「それゆえ、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。」

これはどういう意味でしょうか？
皆さん、祈りましょう！ イエス・キリストの霊的な祝福を祈り求めなさい。そうすれば、あなたは天の支配と権威の前に、あなたの権威を誇示することができるでしょう。これは神の子として、あなたが持つ神聖な権利であり、受け継ぐべきものです。試練が来ても心配しないでください。それはパウロが教えている訓練なのです。

パウロがここでどのように締めくくっているか見てみましょう。
「13 だから、私があなたがたのために受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです。」

パウロの試練は、彼が祈る立場にあった理由のすべてでした。

まとめ

これまでお話ししたことを全て結びつけて、少しクローズアップしてみましょう。

1. 試練を祈りの機会だと考えてください。
2. 神の主権とキリストの力に対する畏敬の念を、あなたが祈るための動機づけとしてください。
3. 団結して、互いに力強く祈りましょう。
4. キリストにあって、神に直接つながっている事を知り、自信を持って祈りましょう。
5. 攻撃されても恐れたり、意気消沈したりしないでください。

攻撃されても、と私が言ったことに注目してください。あなたは不思議に思うかもしれません。--私たちにはこれほどの力があるのに、なぜまだ苦難に遭うのだろう？
サタンは私たちを憎んでいるからです。そして初めから神の裁きによって私たちを滅ぼすことを望んでいたのです。

今私たちが持っているものを見てみましょう。
コリントの信徒への手紙一 15 章 57 節「私たちの主イエス・キリストによって私たちに勝利を与えてくださる神に、感謝しましょう。」

そして将来何が起こるか見てみましょう。
コリントの信徒への手紙一 6 章 3a 節「私たちが天使をさえ裁くことを知らないのですか。」

立場が入れ替わっていつの日かサタンは私たちによって裁かれるのです。そしてどうでしょう、彼はそれが気に入らないのです。
でも神の言葉はこうです。
ヤコブの手紙 4 章 7 節「ですから、神に従い、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

服従するのギリシャ語、hypo-tassō という言葉は、文字通り「自分を（ tassō ）「下（ hypo ）」に置く」という意味です。つまり、どんな状況にあっても、あなたは天の父に繋がっていることを忘れないでください。主の下に身を置き、主に叫び助けを求める、そうすれば悪魔は必ず逃げ去るでしょう。
ヤハウェは救う！それがイエスです！

招き

生きるのは、楽ではありません。
ヨハネの福音書 16 章 33 節で、イエスはこう言っています。
「これらのことを話したのは、あなたがたが私によって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っている。」

救い主イエス・キリストの平安を受けてください。主は世に打ち勝たれました。主を信頼してください。そうすれば、私たちは赦されます。そうすれば何も恐れることはなく、天の御父の子として、私たちは何でも主に頼ることができま

す。祈りには力があります。そして神はあなたの必要な時に助けてくださいます。私たちが困っている時に助けてくださいます。
ですから今すぐにでも神に祈り、求めてください。

心に留めておいてください、イエスはこう言われました。
（マルコによる福音書 5 章 36 節）「恐れることはない。ただ信じなさい 」

ただ、信じるのです。
祈りましょう。

ジェシー・セザリオ牧師
東京バプテスト教会
2025 年 10 月 24＆25 日

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg4425jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
11 月 8 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 401
人生の使命を発見する
11 月 9 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ルーム 304(3F)
参加条件: クラス 301 まで修了した、TBCメンバーの方

★クラス 402
キリストの伝え方
11 月 23 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 まで修了した、TBCメンバーの方

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト＆印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成＆印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org